

# 千里地理通信

関西大学地理学・地域環境学教室会報 第91号

Newsletter of Department of Geography and Regional Environment, Kansai University

## Contents

Page 1 .....  
新任挨拶

筒井由起乃

Page 2-3 .....

1 泊バス巡検報告  
丹波篠山の自然と  
人文

加藤由衣・  
須田明日香

Page 3 .....

秋の日帰り巡検の  
案内

Page 4 .....

卒業論文及び修士  
論文一覧  
同窓会事務局ニュース

Page 5 .....

第6回千里地理学会  
大倉基金の創設に  
ついて  
教室だより

Page 6 .....

随想  
植生景観の諸相  
小椋純一

Page 2-5 .....

新専修生からのひと  
こと

## 新任挨拶

筒井由起乃

4月に関西大学地理学・地域環境学専修に着任いたしました。半期終えたところですが、学生のみなさんの元気の良さと先生方の温かさに助けられています。これから、どうぞよろしくお願いたします。ご挨拶兼ねて自己紹介をさせていただきます。

私の専門は人文地理学で、学生時代から農村に関心を持ち、フィールドワークを行ってきました。卒業論文は、岩手県にある中国からの引揚者が作った「集団農場」を題材とし、修士課程に入ってから、フィリピンやベトナムといったアジアの農村をフィールドとしてきました。奈良女子大学に籍を置きながら、研修や留学で海外へ行くことができたのは、修士課程の指導教官であった野間晴雄先生はじめ、諸先生方のご理解とご支援のおかげです。特にベトナムについては、当時奈良女子大学と協定を結んではいたものの、地理とはこれといった関係はなかったハノイ理科大学とのパイプを野間先生が作ってくださったおかげで、留学することができ、修士論文や博士論文のためのフィールドワークをすることができました。

野間先生に声をかけていただいて最初にベトナムに行ったのは修士1年生だった1997年でした。それから約四半世紀、産休・育休期間中とコロナ禍を除いてほぼ毎年、ベトナムの土を踏んできました。研究としては、ベトナム農村からはじまり、都市との関係、フランス、カンボジア、オーストラリアなどの在外ベトナム人コミュニティ、人口移動と展開してきましたし、訪れる場所もベトナム北部の農村から、ベ

トナム全土、またベトナム国外へと広がりましたが、私の中では、院生時代に農家に泊めていただきながらフィールドワークに勤しんだ時間が今も原点で、それを大事にしつつベトナムの変化を見続けています。

ベトナム人は情に厚い人が多く、私にもベトナムの「父」や「母」、「兄」、「姉」、「弟」、「妹」ができました。彼らの存在や彼らとの関係性は、私にとってフィールドとの距離感を意識するうえで、今も大切なものです。

日本学術振興会の特別研究員を経て、2003年に追手門学院大学に就職しました。アジア文化学科というところで、地理関係の科目のほか海外フィールドワークやベトナム語の授業を担当しました。海外フィールドワークでは、マレーシアやシンガポールが主な引率先でしたが、国境を越える名目でインドネシアへ行ったり、現地の大学生と交流したり、日系企業を訪問したり、と毎年アレンジを加えながら、学生たちと一緒に体験し、学ぶことができました。

その後の組織改編で、アジア文化学科→アジア学科→国際日本学科→人文学科と変わり、「ベトナム」や地理とは離れた授業を担当することもありました。看板が異なると集まる学生も様々で、いろいろな学生さんと出会えたことはとても興味深く、ありがたいことでした。

関大に移るにあたり、研究室の引越しをしました。荷物を整理するなかで一番手が止まったのは、これまでの21年間の追大のゼミ生の卒業論でした。読み返し、いろいろな学生さんがいたんだなぁと改めて実感しました。これからどのような出会いがあるのか、とても楽しみにしています。

(つづい ゆきの：本学教授)

## 新専修生からの ひとこと

### 赤松優羽

歴史地理学や文化地理学に興味があり、この専修に来ました。高校では地理をしていなかったのですが、皆さんよりわからないことが多いとは思いますが、よろしくお祈りします。

### 秋長優里花

地理の中では農業などの自然地理に興味があります。でもたくさんの方のこの3年間で学んでいきたいです。

### 井上凜史

こんにちは。旅行が好きなのと学びの扉の授業が楽しかったのが地理学専修を選びました。地理を本格的に勉強するのは初めてなのですが頑張ります。よろしくお祈りします！

### 小坂渉実

16専修の中から、学びたい専修を選ぶにあたってたくさんの方の資料を見た際に、様々な地域に行き、現地で学べる環境があることを知り、魅力を感じました。たくさんの方の知識をつけたいと思います。

### 尾崎 鈴

幼い頃から地理が好きで、地理学専修に入りました。フィールドワークなどを始めとする調査するのが楽しみです。よろしくお祈りします。

### 釜ヶ谷遼

今年より地理学・地域環境学に配属になりました。釜ヶ谷です。小さい頃から旅行と観光に興味があり、この専修を選びました。これからよろしくお祈り致します。

### 北野稜大

高校時代の地理教師に憧れて地理系の進路を選択しました。

### 島崎祐輔

こんにちは。一回生時のフィールドワークを通し、地理学に興味を持ちました。自分の目で地域を回り、色々と考察する機会がこれから楽しみです。これからよろしくお祈りします！

### 下津敬由

こんにちは。地理学についてはあまり知らないのですが地図を読むのが好きなので地理学専修に希望しました。卒業するまでの期間で見聞を深めたいです。よろしくお祈りします。

## ■ □ 1泊バス巡検報告 □ ■

## 丹波篠山の自然と人文

加藤 由衣・須田明日香

2024年5月11日、12日に「丹波篠山地域の自然と人文」をテーマとした1泊2日のバス巡検が実施された。今年度は参加人数が多くバスに全員が乗ることができないことから、初日はJR篠山口駅に現地集合し曇りつつない青空のもと徒歩巡検を行った。

最初の目的地である篠山城へ徒歩で行くには少し距離があるため、バスを利用して向かった。例年では、バス巡検であるため目的地に向かうバスの中で、大学院生と3回生が事前学習をもとに作成した資料の発表や先生方による解説を行っていたが、今回は篠山城にある広場にて行われた。

発表後は、篠山城内を各々見学する時間が与えられた。徳川家康によって築城された篠山城は、大書院以外の建物は取り壊されてしまったが他の城とは違い、京都の二条城のような平屋造りで部屋の数が非常に多かったことが印象的だった。

次にデカンショ館へと向かった。デカンショ館は、篠山の歴史と文化を歌詞にのせて歌った「デカンショ節」をはじめとする丹波篠山の歴史・文化・自然・特産品等を紹介している。このデカンショという言葉は、囃子言葉の「ドッコイショ」が転化したものなど諸説あるが定かではないらしい。デカンショ館見学を終えると、自由時間が与えられ各々篠山城下町にて散策しながら昼食をとった。

昼食後、大学院生と3回生、2回生の2グループに分かれた。我々のグループはまず歴史

美術館へと向かった。歴史美術館は、我が国最古級となる木造の裁判所を活用した場所となっている。丹波篠山に伝わる武具、漆芸、絵画などの美術品や埋蔵文化財の展示などを見て過ごした。また、旧裁判所であるため、法廷が残されている。自由に入ることができ、模擬裁判体験を楽しむ人もいた。

歴史美術館見学を終え、次は鳳鳴酒造へと向かった。鳳鳴酒造では、実際の酒造りに使用していた道具や製造工程のパネル展示、当時の現場などを見学した。見学後には、試飲をさせてもらっている人や、実際にお酒を購入している人、日本酒の飲み比べをしている人など各々楽しく過ごしていた。

鳳鳴酒造の見学後、2グループ合流して河原町妻入商家群～御徒町武家屋敷群～安間家資料館へと向かった。向かう途中、快晴のため日差しが強かったが、お花が咲いていたり小さな川が流れていたり丹波篠山の自然を感じることができた。河原町妻入商家群では自由時間が与えられた。城下町のような外観が特徴的で、おしゃれなカフェや可愛い雑貨屋さんなどが多数あり、楽しく散策することができた。御徒町武家屋敷群では、河原町妻入商家群とはまた違った風貌で昔ながらの景色だと感じ、茅葺き屋根が見られ静かな佇まいだと記憶に残っている。同じ通りにあった安間家資料館では、食器や甲冑、台所などから武士の暮らしを知ることができた。また資料館が、古民家のような造りになっており、庭にある竹林を見ながら縁側に



座って仲良く話している姿が見受けられた。こうして天気にも恵まれた巡検1日目が終了した。

2日目は曇り空のスタートとなった。大学院生と3回生の一行はバスに乗り宿を出発、まずは立杭陶の郷にある丹波焼立杭登へ向かった。ここの窯は丹波焼最古の登り窯が特徴で、全長およそ50mであった。私たちは実際に窯のそばを歩き、窯を軽く触ることも出来た。非常に急勾配な山の斜面に位置していたため、全員が、小雨に濡れながら登ったことが印象的であった。

次に向かったのは、福住重要伝統的建築群である。閑静な街並みと古い住宅が多く残る風景は、歩いているだけで心が落ち着く雰囲気であった。散策中には、古い家屋を再生したおしゃれなパン屋を見つけ、パンやジュースを購入している人もいた。個人的には、通り沿いにあった丹波篠山市役所多紀支所の看板が非常に印象的で、トイレのピクトグラムが着物と袴を着た人物になっており、思わず写真を撮ってしまった。

重伝建を後にし、次は保津川沿いにある保津川水辺公園で昼食を摂った。日曜日ということ

もあり、バーベキューを楽しむ家族やグループが多く見受けられ、私たちも河川敷で写真を撮ったり水を触ってみたりするなど、短時間ではあったが保津川の自然を楽しんだ。

最後に、私たちは亀岡城を訪れた。ここでは徒歩で城跡周辺を散策した。駅にも比較的近く、住宅街や交通量の多い道路に隣っていたが、ここだけは多くの自然に囲まれ静かで厳かな空気が流れていた。私たちは、石垣に刻まれた家紋や人名を探すことに夢中になった。これは亀岡城建設の際に天下普請をした大名たちの刻印であり、普段城郭に興味が無い人も宝物探しのような感覚で楽しむことが出来た。またこの亀岡城は現在、宗教法人「大本」の聖地「天恩郷」として管理されている。

今回の巡検を通して、兵庫県丹波篠山市と京都府亀岡市を中心に、地理的視点で街の歴史や環境を見つめることが出来た。特に丹波篠山城と亀岡城という2つの城址を訪れ、城下町の様子を比較することが出来たことは、今後の私たちの学びに繋がるだろう。

(かとう ゆい・すだ あすか：本学3年生)

#### 菅谷夏基

地理がかなり好きで、もはや趣味の範疇になっています。この大学に来たのも地理があったからです。圧倒的インドア人間なので、これからたくさんあるフィールドワークは、外界に繰り出す良い機会になるだろうと思います。どうぞよろしくお願ひします。

#### 谷口由莉恵

巡検を通して、さまざまな地域や文化と出会うことで、自分の知見を広げ、多面的な視点から社会を見れるようになりたいです。

#### 谷ノ口朝陽

こんにちは。地理や歴史が好きなので地理学専修に希望しました。旅行や違う地域に行くことが好きなので色々な地域に行ける事が楽しみです。これからよろしくお願ひします。

#### 利倉 楓

日本も含め海外の地域についても興味がありこの専修を選択致しました。特に日本と海外の地域の違いによって人々の生活にどのような違いがあるのかについて興味があり、卒業論文に向けてそこを中心に学んでいきたいと思っております。

#### 戸田咲良

初めまして。昔から地図や街歩きが好きで、高校生の時に地理学という学問を知りこの専修を希望しました。特に住宅街や田舎の暮らしについて興味があります。これからよろしくお願ひします！

#### 土井拓都

現時点では、あまり地理について詳しくないので、これからたくさんのお話を聞いていきたいなと感じています。また、今回のガイドダンスでも興味をそそられたので、これから楽しみです。

#### 中川涼介

新潟から来ました中川です。地理学専修は、鉄道や航空などの交通インフラに興味があったので選択しました。よろしくお願ひします。

#### 中西剛徳

こんにちは。私は鉄道、魚、旅行が好きで、今までに46都道府県に行ってきました。残すところ後一つは宮崎県です。宮崎県で行きたいところは高千穂の夜神楽、椎葉村、鬼の洗濯岩、綾町のお茶、都城駅に行ってみみたいです。いっぱい旅したいです。

## 秋の日帰り巡検の案内

関大地理同窓会（旧・関西大学地理学研究会）の恒例行事ともなっている教室の日帰り巡検を、2年生、M1の大学院生の案内を中心にして、以下の要領で実施します。今回の巡検は、大和郡山市と奈良市奈良町を対象に、泉州中核部の自然、産業、歴史景観を観察します。大和郡山市と奈良市間は近鉄を利用します。昼食は奈良町付近で各自とります。

参加希望される方は、9月28日（土）までに氏名、メールアドレス、携帯電話番号を同窓会事務局（kandaichiri@gmail.com）までお知らせ下さい。

テーマ：大和郡山市と奈良市 —奈良盆地北部の自然、産業、歴史景観—

日程：2024年9月29日（日）10：00～17：00頃

集合：近鉄郡山駅 10時（9：52着：大阪難波9：16発→鶴橋9：22発→大和西大寺で乗換）

コース：近鉄郡山駅（10：00）～郡山城址～紺屋・町家物語館（2班に別れて見学）～金魚ストリート～近鉄郡山駅（11：39発ないし11：56発）—近鉄奈良駅～東向商店街～もちいどのセンター街～ならまちセンターで一時解散、各自昼食（14：00再集合）～奈良町散策（なら工芸館～庚申堂～ならまち格子の家～吉田蚊帳～元興寺～清酒春鹿醸造元～奈良ホテル～興福寺、3班に分かれて散策、10分おきに出発）～奈良公園～奈良国立博物館（16時半頃解散）～解散後、奈良公園を各自散策

費用：電車賃（近鉄郡山駅～近鉄奈良駅300円、集合前・解散後の移動）、元興寺拝観料400円、昼食代

教員責任者：筒井由起乃、土屋純

#### 西川 怜香

はじめまして！お散歩と旅行が好きで地理学専修を希望しました。行ったことない場所を歩くことが好きなのでフィールドワークがとても楽しみです！これからよろしくお祈りします！がんばります！

#### 畠山 史城

田舎出身なので地域学に興味があります。専修ガイダンスでの話を聞いて専門性が上がることを知り少しビビっています。楽しく学びたいです。

#### 春木 結子

私の生まれは日本だが、幼少期3年間シンガポールで育った。その経験は、海外を含めた旅が好きになる要因となった。旅を通じて、地理を3年間勉強したい。

#### 平沼 裕聖

おはようございます。あまり色々な所に旅行をしてこなかったのですが、海外や日本でも自然にとっても興味があるので、これからどんどん知識を習得して、行ってみたいと思います。

#### 福庭 果南

私は地理を勉強するのは未経験に近いですが、これから3年間地理学専修で一生懸命勉強したいと思っています。これからよろしくお祈りします。

#### 藤野 晋伍

実際に様々な場所に訪れて発見することが好きです。自然地理に興味があります。やりたいことが全く決まらないので色々なことに興味を持って取り組みたいです。

#### 松村 葵

私は、高校の授業から地理に興味を持つようになりました。これから3年間、授業や巡検を通して地理への学びを深めていきたいと思っています。

#### 水田 葵

漠然と地理が好きで、地理学専修をえらびました。東南アジアの歴史や文化に興味があります。趣味は、水泳と旅行です。よろしくお祈りします。

#### 山本 悠生

春の知のパスポートの授業で、巡検を始めたこと地理への様々な角度からの見方を学びこの専修に興味を持ちました。体育会に参加しているためイベントに積極的に参加できないなどの至らぬ点もあ

## 卒業論文及び修士論文一覧 (2024年3月卒業・修了)

### [2024年3月卒業論文]

神谷 風奈	春日信仰における信仰圏と歴史的過程について
久野 拓馬	沖縄・かりゆしウェアの近況と農産物・伝統工芸との関わりについて —月桃および首里織を例に—
上野 颯亜	コンパクトシティ形成におけるLRTがもたらす役割とは —宇都宮芳賀ライトレール線を例に—
西 温紀	横浜業務核都市における郊外自立化の動向 —新横浜都心地区に注目して—
酒井 滉平	バンクーバーの歴史から見る今後の展望 —多文化主義の観点から—
和田 多生	鉄道駅周辺の土地利用 —鉄道用地の再開発に注目して—
森川 弘世	新規鉄道路線開業によるネットワーク変化及び通勤流動への影響 —おおさか東線延伸と大阪駅北地区再開発区域を例に—
吉岡 加帆	城下町龍野の文化資源とその活用 —風景・人・地場産業—
塩谷 唯	京都市の地理的条件による自然災害への防災意識の違い —京都ノートルダム女学院中学高等学校を対象に—
松田 治樹	紀の川流域における避難所と避難経路の安全性 —岩出市を事例に—
隅田 尚亮	松山市中心部における近年の高層建築物の立体的空間利用の変化
北村 達也	日本プロ野球球団と沖縄県の春季キャンプ地および周辺地域との関係性 —地域振興と練習環境に着目して—
野垣 光希	温泉地における観光形態の変化と新しいかたち —兵庫県城崎温泉を事例に—

### [2024年3月修士論文]

潘 多	天井川の発達過程から見た自然災害と水利用の特徴 —木津川流域を例に—
張 然	高冷地山村における生活空間と居住空間の関連性 —長野県木曾開田高原西野を事例に—
張 銘珊	関西私鉄沿線における文化資源の発見と検討 —生駒・高野山・比叡山の社寺参詣を事例に—
楊 珺屹	今帰仁村謝名における伝統的集落と集合的記憶の構築 —集落復原とグループインタビューの質的分析—

### 〈同窓会事務局ニュース〉

- ・2024年12月14日(土)17時より2024年度千里地理学会大会と同窓会総会を開催いたします。
- ・2015年の卒業生に対して、事務局からメールによる消息調査をおこなっています。事務局が把握し該当する卒業生の方にはメールを送付しておりますので、ご協力よろしくお祈り申し上げます。
- ・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600字程度、半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス[kandaichiri@gmail.com]までご連絡ください。また、会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお祈りいたします。

## 第6回千里地理学会

日時：2024年12月14日（土）14時00分～17時 総会・懇親会 17時～20時

場所：関西大学千里山キャンパス第1学舎5号館（E棟）E602

千里地理学会 14時00分～17時

- 1) 大学院博士課程前期課程院生：会津若松市実習調査中間報告
- 2) 前迫ゆり（本学非常勤講師）
- 3) 劉 天星（本学博士課程後期課程）
- 4) 吉兼崇博（和木町教育委員会）

★懇親会を学内施設で開催いたします。詳細は専修のウェブサイトで連絡します。

ふるってご参加ください。懇親会参加の方は12月7日までに教室メールアドレスにお申し込み下さい。

ると思いますがこれからよろしく願います。

### 〈大学院生〉

#### 王 競東

半年の研究生生活を経て、今やっと修士に進学しました。今後も必ず、きちんと勉強します。今の私は企業城下町の研究を行って、とても嬉しいです。今後も皆よろしく願います。

#### カク 玉朋

こんにちは、私は中国の留学生です。運動と小説が好きです。大学院で経済地理について研究します。次の二年間よろしく願います。

#### 虞 嘉誠

初めまして、中国浙江省出身の虞嘉誠です。土屋ゼミに所属しています。日本の公共交通機関とまちづくりの関係に興味を持って地理学専修を選びました。今後の勉強でいろいろな経験を積んで研究に全力を注ぎたいと思います。これからもどうぞよろしく願います。

#### 佐伯雅優美

他大学の法学部を卒業して、この地理学専修に入学しました。関大についても地理についても知らないことだらけですので、たくさんの人と関わって勉強していきたいなと思います！よろしく願います。

#### 楊 珺屹

こんにちは。今春からD1の楊珺屹です。私は中国湖南省の出身で来日5年目になります。日本の文化や人々にとても興味を持ち、特に沖縄が好きで、修士のころから研究をはじめ、今後も深めていきます。どうぞよろしく願います。

## 大倉基金の創設について

教室OBでノエビアホールディングス代表取締役社長の大倉俊氏より多額の寄付を頂きました。大倉様にはこの数年にわたり多額のご寄付をいただき、教室の備品購入や「千里地理通信」の刊行など、教育環境の充実、同窓会活動の活性化など多岐にわたりご援助いただいています。教室では一連の寄付を大倉基金と名付けあらためて御礼申し上げますとともに、教室のより一層の教育・同窓会活動の充実に活用させていただくことにいたしました。本年度は実習室・資料室の環境整備、「千里地理通信」関連の支出、2月末に予定する学生の海外巡検時の教員随行費の一部として支出予定です。

## 教室だより

■令和6（2024）年度の地理学・地域環境学専修に分属された2回生は26名でした。大学院博士課程前期課程には4名（外部入学者1名、留学生3名）、博士課程後期課程には1名（留学生1名）が入学しました。9月末現在、2回生は26名、3回生は32名、4回生は27名、博士課程前期課程8名、博士課程後期課程3名の計96名となります。

■恒例の5月の「地理学・地域環境学実習」のバスによる1泊巡検は、5月11～12日に丹波篠山方面に一泊二日で実施しました。

■6月16日（日）に神戸市の神仙閣にて、末尾先生の一周忌の集いが教え子を含めて20名

程度で開催されました。教室を代表して野間晴雄名誉教授にご出席いただきました。

■大学院合同演習は、昨年と同様に関西大学梅田キャンパスで7月20日（土）に実施しました。大学院生9名の発表がありました。

#### ■教員の外国出張

筒井由起乃教授が7月にインドネシアで開催された国際学会にて口頭発表をおこないました。

#### ■集中講義

2024年7月25日（木）～7月27日（土）に大学院博士前期課程向けの「人文地理学特別研究」に吉田国光先生（立正大学准教授）にご出講いただきました。

私の専門は植生景観史で、主に日本の里山の植生景観の変遷について、さまざまな方法で研究してきました。森林率の高い日本は「森の国」と呼ばれることもあり、その森林は昔は今よりもっと広く豊かであった…と思われることが多いのですが、文献や絵図類や古写真、あるいは地中に残る微粒炭の分析など、さまざまな方法で調べてみると、昔は今よりも森林が少なく、その一方で、今ではあまり見られない草原が多かったことなどがわかります。

そのような専門の私は、野間先生のお誘いを受け、「地域環境システム論」の非常勤講師を16年（春学期のみ）勤めてきましたが、定年ということでそれも今年度で最後になりました。京都精華大学で常勤教員の傍ら他のいくつかの大学で非常勤講師もしてきましたが、これほど長く続けたのは関西大学だけです。それは非常勤講師へのサポート体制が整っていたことなどもありましたが、その大きな理由として大学の図書館が良かったことがありました。

豊富な蔵書とともに、図書館のオンラインのサービスが芸術系中心の旧本務校とは異なりたいへん充実しており、とくに海外の多くの論文検索、閲覧が自宅からも自由にできるのはとても助かりました。本年12月には1つ学会発表を予定していますが、そのためにも海外論文の検索、閲覧はとても重要で、そのサービスの残りの利用可能期間も有効に使わせていただく予定です。私は昨年度末、長く勤めた旧本務校を退職し、岡山県北の実家で過ごすことが多くなっていますが、その後も関西大学で非常勤講師をさせていただいたのは、そうした図書館のことがずいぶん大きかったと思います。

ところで、その実家付近の里山でもここ数十年間に大きな植生景観の変化がありました。それだけでなく近年大きく変化してきた自然状況があります。その最たるものが、シカやイノシシが大幅に増え、クマもたまに出てくるようになったことです。そうした状況は実家付近だけでなく、日本の多くの山里などで見られることですが、そのことによりとくに農業に大きな影響が出ています。

かつてはそうした動物の害を心配することがなかったため、農地に柵など設置する必要はなかったのですが、金属柵や電気柵など、何らかの柵を設置しないと田畑がうまく作れなくなってきています。この春、私も実家の畑の柵を設置し直したり新しく作ったりしたのですが、柵作りに慣れていなかったため、イノシシやシカに畑に入られ、収穫間近であったジャガイモがほとんど全滅するなど大きな被害を受けました。また、数年前のことですが、米の収穫の手伝いに帰った時、田んぼの真ん中に巨大なクマの糞を見つけて驚いたこともありました。

実家付近では、イノシシは昔からわずかにいたようですが、シカやクマはまったくいませんでした。近年、とくに

シカの増え方はすごく、少し山に入ればすぐ見かけることができるほどになってきました。山だけではなく、家のすぐそばにも出てくることも多く、積雪が多かった冬には建物の軒下を寝所にし、家の軒下に置いていた樹齢200年近いマツの盆栽の葉を食いつくして枯らしてしまったりもしました。

30年ほど前、イギリスのケンブリッジでの在外研究期間中、町の郊外では植樹して間もない木々にはシカなどの食害を防ぐため、円筒メッシュ状のツリーガードがしてあり、ずいぶん面倒なことをして木を育てていると感じたものですが、それが実家付近でも、また多くの日本の山里などでも近年当たり前のこととなってきました。

そうした野生動物の増加の背景には、狩猟が大幅に減ってしまったことでもあります。植生景観の変化も関係しているところもあると思われます。たとえば、クマが人里にしばしば出てくるようになったことです。かつて実家付近では民家や集落のすぐそばには、主に燃料用の雑木林がありましたが、その先には草原が山の上の方まで広がっているところがほとんどでした。そのような状況では森林性の動物であるクマが現れることはありえなかったのです。日本各地でクマの出没やその被害の情報が多く出てくるようになりましたが、その背景には私の実家と同様な植生景観の変化が関係する所も少なくないのではないかと思います。

近年、明治初期以降激減してきた草原の重要性が生態学などで見直されてきていますが、そうした中、今年5月に岡山県で実施された全国植樹祭のプレイベントとして、実家から3kmほど南にある大ヶ山<sup>たいがせん</sup>という山で、そこにわずかに残っていた草地に一昨年サクラやモミジなどの植樹がおこなわれました。かつてきれいな草原の山であった大ヶ山は、昭和44年（1969年）に指定された「氷ノ山後山那岐山国定公園」の一角で、指定区域からそのきれいな草原の景観が評価されて国定公園の一部になったと思われますが、いまはヒノキやスギなどの人工林が多いふつうの山になってしまいました。全国植樹祭も、それが始まった戦後間もない頃はハゲ山なども多く、植樹の必要性が非常に高く大きな意味があったのですが、そのあり方が見直されるべき時期にあるのではないかと…岡山県北の実家で暮らしながら、そのようなことも思ったりしている昨今です。

（おぐら じゅんいち：京都精華大学名誉教授・本学非常勤講師）

千里地理通信 第91号

2024年9月21日 発行 (300部)

関西大学地理学・地域環境学教室  
関大地理同窓会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内  
編集担当：松井幸一

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

e-mail：kandaichiri@gmail.com

http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪00970-4-81149